

小児がん拠点病院 現況報告書(新規指定申請書・指定更新申請書)

令和4年9月1日時点について記載

申請区分 (小児がん拠点病院の指定の希望の有無)	令和4年9月1日現在小児がん拠点病院の指定を受けており、令和5年4月1日以降も小児がん拠点病院の指定を希望する										✓		
病院名	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター												
よみがな	とうきょうとりつしょうにそうごういりょうせんたー										✓		
郵便番号	〒	183-8561								✓			
住所	東京都	府中市武蔵台2丁目8番地29号								✓			
よみがな	ふちゅうしむさしだいしちやうめはちばんちんにじゅうきゆうごう										✓		
電話(代表)	042-300-5111										✓		
FAX(代表)	042-312-8162												
e-mail(代表)	sn.keikaku.ka@tmhp.jp												
HPアドレス	https://www.tmhp.jp/shouni/												
診療科	開設診療科数	34								✓			
診療科名(具体的に記載)	小児科、心療内科、循環器内科、内分泌・代謝科、血液腫瘍内科、血液腫瘍外科、腎臓内科、透析内科、神経内科、呼吸器内科、呼吸器外科、感染症内科、消化器内科、アレルギー科、小児外科、心臓血管外科、泌尿器科、整形外科、形成外科、脳神経外科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、小児歯科、矯正歯科、臓器移植外科、臨床検査科、放射線科、麻酔科、児童・思春期精神科、救急科、新生児内科、リハビリテーション科、病理診断科										✓		
外来診療受付時間	曜日	月～金	時間	8	時	00	分	～	16	時	00	分	✓
	曜日	土	時間	8	時	00	分	～	12	時	00	分	
外来診療時間	曜日	月～金	時間	9	時	00	分	～	17	時	00	分	✓
	曜日	土	時間	9	時	00	分	～	12	時	30	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時		分	
休診日	日曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)												✓
初診時の予約	すべての診療科で必要										(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)	✓	
初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要										(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)	✓	
病床数	総病床数	561	床								✓		

診療実績 (令和3年1月1日～12月31日)

施設全体の入院患者延べ数(18歳以下) ※1	9,856	人	✓
施設全体の入院患者実数(18歳以下) ※1	7,057	人	✓
小児がん入院患者延べ数 ※2	689	人	✓
小児がん入院患者実数 ※2	140	人	✓
小児がん入院患者在院延べ日数 ※3	11,562	日	✓
外来小児がん患者数 ※4	3,371	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	29	人	✓
セカンドオピニオンに対応を行った小児がん患者数 ※6	3	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※7	102	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数 ※8	92	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※9	191	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関数 ※8	107	機関	✓

- ※1 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者の延べ数と実数をそれぞれ計上する。令和3年1月1日以降に入院した患者を数える。
入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1人と計上する。
入院患者延べ数については、当該年に同一患者が2回入院した場合は2人とする。(入院日数によらず、1回の入院あたり1人を計上する。)
- ※2 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者のうち、小児がん患者(「診断時18歳以下のがん患者」と定義する)の延べ数と実数をそれぞれ計上する。令和3年1月1日以降にがんの診療を目的として入院した患者を数える。
骨折での入院のような他疾患の治療目的での入院は除外するが、フォローアップ検査等での入院は含む。
入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1人と計上する。
入院患者延べ数については、当該年に同一患者が2回入院した場合は2人とする。(入院日数によらず、1回の入院あたり1人を計上する。)
- ※3 当該医療機関で入院加療を行う入院時18歳以下の患者のうち、小児がん患者(「診断時18歳以下のがん患者」と定義する)の在院延べ日数を計上する。
前年から入院している症例は、1月1日を起算日とする。翌年まで入院している場合は12月31日を退院日としてカウントする。
当該期間内のがんの診療目的での入院を数える。(他疾患の治療目的(例:骨折にて入院)での入院は除外、フォローアップ検査等は含む)
(入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も1人と計上する。)
(入院時点で診断がなされていない場合は、がんの診断日を入院初日とする。)
- ※4 診断時18歳以下を対象とする。初診料もしくは再診料を算定した小児がん患者の延べ数を記入する。
同一患者が2つ以上の診療科を受診した場合は、それぞれの患者として計上する。
- ※5 診断時18歳以下を対象とし、総数(実数)を計上する。終末期の患者だけではなく、緩和ケアチームが検討した結果、診察・薬剤・リハビリなど診療行為の対象となった患者を含むが、カンファレンスのみを行い、実際の診療行為が行われていない患者は含まない。
- ※6 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、当該年に2回セカンドオピニオンを行った患者は、2人と計上する。
- ※7 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、フォローアップ目的の紹介を含む。
- ※8 重複のない実数を計上する。
- ※9 診断時18歳以下を対象とし、延べ数を計上する。なお、紹介時には18歳を超えていても構わないが、がんに関連しない疾患での紹介(歯菌に対する歯科診療など)は含まない。転院目的での紹介は含むが、同時期に複数病院へ同一内容で紹介した場合は1人と計上する(同時期に異なる内容で紹介または異なる時期に同一内容で紹介の場合は別で計上する)。

小児がんに関する専門外来の名称

血液・腫瘍科(含む「長期フォローアップ外来」、脳神経外科、眼科、外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻いんこう科

✓

職員数	総数(事務職員を含む)	1,371人	うち常勤(※)	
	医師	381	190	
	歯科医師	10	2	
	薬剤師	34	24	
	保健師	0	0	
	看護師	683	660	
	准看護師	0	0	
	理学療法士	4	2	
	作業療法士	7	4	
	視能訓練士	5	1	
	言語聴覚士	6	1	
	義肢装具士	0	0	
	診療放射線技師	24	16	
	臨床検査技師	28	16	
	衛生検査技師	0	0	
	臨床工学技士	12	11	
	管理栄養士	14	9	
	栄養士	0	0	
	社会福祉士	16	8	
	精神保健福祉士	8	8	
	公認心理師	21	17	
	介護福祉士	1	0	
	保育士	33	19	
	その他の職種	84	3	
		人数	うち常勤(※)	
	日本小児血液・がん学会 専門医	6	5	
	日本小児血液・がん学会 指導医	3	2	
	日本小児血液・がん学会 暫定指導医	0	0	
	日本小児血液・がん学会 認定外科医	2	2	
	日本小児外科学会 専門医	12	8	
	日本小児外科学会 指導医	5	4	
	日本小児科学会小児科 専門医	112	88	
	日本小児神経学会 小児神経専門医	6	4	
	日本脳神経外科学会 脳神経外科専門	7	5	
	日本病理学会 病理専門医	5	1	
	日本血液学会 血液専門医	4	4	
	日本血液学会 血液指導医	2	2	
	日本造血・免疫細胞療法学会 造血細胞移植認定医	1	1	
	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	0	0	
	がん治療認定医機構 がん治療認定医	9	8	
	日本放射線腫瘍学会・公益社団法人 日本医学放射線学会 共同 放射線治療専門医	1	1	
	公益社団法人日本医学放射線学会 放射線診断専門医	7	3	
	日本緩和医療学会 緩和医療専門医	1	0	
	日本緩和医療学会 緩和医療認定医	1	0	
	日本内分泌学会 内分泌代謝科専門医	2	0	
	日本小児循環器学会認定 小児循環器専門医	5	5	
	日本看護協会 がん看護専門看護師	0	0	
	日本看護協会 小児看護専門看護師	4	4	
	日本看護協会 地域看護専門看護師	0	0	
	日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師	2	2	
	日本看護協会 緩和ケア認定看護師	1	1	
	日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師	1	1	
	日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師	0	0	
	日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師	0	0	
	日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師	1	1	
	日本小児がん看護学会 小児がん看護師	0	0	
	日本輸血・細胞治療学会 臨床輸血看護師	0	0	
	日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	2	2	
	日本医療薬学会 がん専門薬剤師	0	0	
	日本臨床細胞学会 細胞検査士	3	3	
	日本医学放射線学会 医学物理士	0	0	
	日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師	2	2	
	日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士	4	4	
	一般社団法人 日本病態栄養学会/ 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士	3	3	
	一般社団法人日本人類遺伝学会 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー	2	1	
	一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー	0	0	
	特定非営利活動法人子ども療養支援協会 子ども療養支援士	0	0	
	チャイルドライフスペシャリスト	0	0	
	ホスピタルプレイスベチャリスト	6	4	

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

1 診療体制

(1) 診療機能

① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供

小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。

専門とするがんについて別紙1に記載すること。

小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、以下のカンファレンスをそれぞれ必要に応じて定期的に開催している。また、検討した内容については、診療録に記載の上、関係者間で共有している。

i 個別もしくは少数の診療科の医師を主体とした日常的なカンファレンス

ii 個別もしくは少数の診療科の医師に加え、看護師、薬剤師、必要に応じて公認心理師や緩和ケアチームを代表する者等を加えた、症例への対応方針を検討するカンファレンス

iii 手術、放射線診断、放射線治療、薬物療法、病理診断及び緩和ケア等に携わる専門的な知識及び技能を有する医師とその他の専門医を異にする医師等による、骨転移・原発不明がん・希少がんなどに関して臓器横断的に小児がん患者の診断及び治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンス

iv 臨床倫理的、社会的な問題を解決するための、具体的な事例に則した、患者支援の充実や多職種間の連携強化を目的とした院内全体の多職種によるカンファレンス

iv のカンファレンスの開催回数（令和3年1月1日～12月31日）

院内の他診療科や、小児がん連携病院、がん診療連携拠点病院等、地域の医療機関と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。

自ら病歴を確保・保存することや疾病理解、健康管理などに関した患者教育、患者啓発に努めている。

長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。

エ AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。

オ 急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。

カ 地域のがん・生殖医療ネットワークに加入し、「小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」へ参画している。

対象とならざる患者および家族には必ずがん治療開始前に適切な情報提供を行い、患者等の希望も踏まえた妊孕性（注5）温存療法及びがん治療後の生殖補助医療に関する情報提供・意思決定支援を行う体制を整備している。

自施設において、がん・生殖医療に関する意思決定支援を行うことができる診療従事者の配置・育成に努めている。

がんの治療に際する妊孕性温存治療を自施設で実施できる。

生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙2に記載すること。

キ 保険適用外の免疫療法等について、治験、先進医療、臨床研究法（平成29年法律第16号）で定める特定臨床研究または再生医療等の安全性の確保等に関する法律（平成25年法律第85号）に基づき提供される再生医療等の枠組み以外の形で、実施・推奨していない。

② 薬物療法の提供体制

薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会を設置している。

③ 緩和ケアの提供体制

ア 小児がん診療に携わる全ての診療従事者により、全ての小児がん患者に対し適切な緩和ケアが提供される体制を整備している。

上記を支援するために、組織上明確に位置付けられた緩和ケアチームを整備している。

自施設で対応できない場合には地域のがん診療連携拠点病院等との連携体制を整備している。

（30.31がともに「はい」の場合には、「いいえ」を選択してください。）

緩和ケアチームの組織・体制について別紙3に記載すること。

イ 外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。

緩和ケア外来について別紙4に記載すること。

ウ 緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的に開催している。

緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数（令和3年1月1日～12月31日）

エ 院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。

情報提供の手段について簡潔に記載すること（例：医療機関のwebサイトに掲載）

オ 小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。

カ 小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。

緩和ケア病棟について別紙5に記載すること。

④ 地域連携の推進体制

ア 小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。

また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。

イ 小児がんの病理診断又は画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法又は薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力体制を整備している。

なお、がんゲノム医療中核拠点病院等と連携して、がん遺伝子パネル検査等に試料を提出するための体制も整備している。

⑤ セカンドオピニオンの提示体制

ア 医師からの診断結果や病状の説明時及び治療方針の決定時等において、すべての小児がん患者とその家族に対して、他施設でセカンドオピニオンを受けられることについて説明している。

その際、心理的な障壁を取り除くことができるよう留意している。

イ 小児がんについて、手術療法、放射線療法又は薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制を有している。

また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。

ウ セカンドオピニオンを提示する場合に、必要に応じてオンラインでの相談を受け付けることができる体制を確保している。

セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙6に記載すること。

(2) 診療従事者

用語の定義：

専任：当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。

専従：就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。

※専任の人数には、専従も含めて記載すること。

① 専門的な知識および技能を有する医師の配置

ア 小児がんの薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。

上記アの医師のうち専任の人数

上記アの医師のうち専任かつ常勤の人数

上記アの医師のうち専従の人数

上記アの医師のうち専従かつ常勤の人数

イ 小児の手術に携わる、小児がん手術に関して専門的な知識及び技能を有する医師の人数。

上記イの医師のうち専任の人数

上記イの医師のうち専任かつ常勤の人数

上記イの医師のうち専従の人数

上記イの医師のうち専従かつ常勤の人数

ウ 小児がんの放射線療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。

上記ウの医師のうち専任の人数

上記ウの医師のうち専任かつ常勤の人数

上記ウの医師のうち専従の人数

上記ウの医師のうち専従かつ常勤の人数

チェック欄に未入力なし

Aの充足状況

エ 緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。			A	2	人	1人以上	70	✓	○
緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数			B	0	人		71	✓	
緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。			A	1	人	1人以上	72	✓	○
緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数			B	1	人		73	✓	
緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。			-	9	人		74	✓	
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数			-	5	人		75	✓	
受講率			-	55.6	%		76		
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数			-	5	人		77	✓	
受講率			-	55.6	%		78		
小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。			-	39	人		79	✓	
うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数			-	20	人		80	✓	
受講率			-	51.3	%		81		
うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数			-	9	人		82	✓	
受講率			-	23.1	%		83		
オ 病理診断に携わる医師の人数。			-	2	人		84	✓	
病理診断に携わる医師のうち専従の人数			A	2	人	1人以上	85	✓	○
病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数			A'	2	人	1人以上	86	✓	
カ 長期フォローアップに携わる部門に配置されている、厚生労働省委託事業小児・AYA世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業による「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師の人数。			A	11	人	1人以上	87	✓	○
② 専門的な知識及び技能を有する医師以外の診療従事者の配置									
ア 小児がんに係る放射線療法に携わる診療放射線技師の人数			A	8	人	1人以上	88	✓	○
放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数			-	7	人		89	✓	
小児がんに係る放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。			A	2	人	1人以上	90	✓	○
放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数			-	2	人		91	✓	
イ 小児がんに係る薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。			-	2	人		92	✓	
薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数			A	2	人	1人以上	93	✓	○
ウ 小児がんに係る緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。			-	2	人		94	✓	
緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数			A	2	人	1人以上	95	✓	○
緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数			B	1	人		96	✓	
緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数			B	3	人		97	✓	
エ 小児がんに係る細胞診断に関する業務に携わる者の人数。			B	2	人		98	✓	
オ 小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する小児がんに係る業務に携わる専門看護師または認定看護師の人数。			A	18	人	1人以上	99	✓	○
うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数			B	3	人		100	✓	
カ 小児がんに係る療養支援等を行う者の人数について							101	✓	
小児科領域に関する専門的な知識及び技能を有する公認心理師等の医療心理に携わる者の人数			A	4	人	1人以上	102	✓	○
医療心理に携わる者の内訳を記載してください。(公認心理師と臨床心理士の両方の資格を有する者は両方に計上してください。)							103		
小児科領域に関する専門的な知識及び技能を有する医療心理に携わる者のうち、公認心理師の人数			-	4	人		104	✓	
小児科領域に関する専門的な知識及び技能を有する医療心理に携わる者のうち、臨床心理士の人数			-	4	人		105	✓	
小児科領域に関する専門的な知識及び技能を有する保育士の人数			A	6	人	1人以上	106	✓	○
小児科領域に関する専門的な知識及び技能を有する社会福祉士もしくは精神保健福祉士の人数			A	4	人	1人以上	107	✓	○
医療環境にある子どもや家族への療養支援に関する専門的な知識及び技能を有する者の人数			A	9	人	1人以上	108	✓	○
小児がんの患者及び家族の療育を支援する、チャイルドライフスペシャリストの人数			-	0	人		109	✓	
小児がんの患者及び家族の療育を支援する、ホスピタルプレイスベシヤリストの人数			-	1	人		110	✓	
小児がんの患者及び家族の療育を支援する、子ども療養支援士の人数			-	0	人		111	✓	
長期フォローアップに携わる部門に配置されている、厚生労働省委託事業小児・AYA世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業による「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した看護師等診療従事者の人数。			A	9	人	1人以上	112	✓	○
(3) その他の環境整備等									
① 放射線療法に関する機器を設置すること。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。			A	はい		(はい/いいえ)	113	✓	○
② 小児患者に対応できる集中治療室を設置している。			A	はい		(はい/いいえ)	114	✓	○
集中治療室を設置している場合、一般向けの特定集中治療室(ICU)の数			-	0	床		115	✓	
集中治療室を設置している場合、小児専門の特定集中治療室(PICU)の数			-	20	床		116	✓	
③ 患者とその家族が利用可能なインターネット環境を整備している。			B	はい		(はい/いいえ)	117	✓	
(4) 診療実績									
① 小児がんについて年間(令和3年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。			A	はい		(はい/いいえ)	118	✓	○
② 固形腫瘍について年間(令和3年1月1日～12月31日)新規症例数が少なくとも10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。			A	はい		(はい/いいえ)	119	✓	○
③ 造血器腫瘍について年間(令和3年1月1日～12月31日)新規症例数が少なくとも10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。			A	はい		(はい/いいえ)	120	✓	○
診療実績等について別紙1および別紙7に記載すること。				別紙1 別紙7			121		
2 人材育成等									
(1) 自施設において、1に掲げる診療体制その他要件に関連する取組のために必要な人材の確保や育成に積極的に取り組んでいる。			A	はい		(はい/いいえ)	122	✓	○
特に、診療の質を高めるために必要な学会が認定する資格等の取得についても積極的に支援している。			A	はい		(はい/いいえ)	123	✓	○
学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。			-	はい		(はい/いいえ)	124	✓	
論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。			-	はい		(はい/いいえ)	125	✓	
(2) 拠点病院の長は、当該拠点病院においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師等の専門性及び活動実績等を定期的に評価し、当該医師等がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。			A	はい		(はい/いいえ)	126	✓	○
(3) 自施設の診療従事者等を中心に、小児がん対策の目的や意義、患者やその家族が利用できる制度や関係機関との連携体制、自施設で提供している診療・患者支援の体制について学ぶ機会を年1回以上確保している。			A	はい		(はい/いいえ)	127	✓	○
自施設のがん診療に携わる全ての診療従事者が受講している。			B	はい		(はい/いいえ)	128	✓	
(4) 小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種診療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催し、人材育成等に努めている。			A	はい		(はい/いいえ)	129	✓	○
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙8に記載すること。				別紙8			130	✓	
3 相談支援及び情報の収集提供									
(1) がん相談支援センター									
①から⑤に掲げる相談支援を行う機能を有する部門(以下「がん相談支援センター」という。なお、病院固有の名称との併記を認めた上で、「がん相談支援センター」と表記すること。)を設置している。			A	はい		(はい/いいえ)	131	✓	○
院内の見やすい場所にがん相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、がん相談支援センターについて積極的に広報している。			A	はい		(はい/いいえ)	132	✓	○
小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、教育機関等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意している。			A	はい		(はい/いいえ)	133	✓	○
患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。			A	はい		(はい/いいえ)	134	✓	○
広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)			-	医療機関のwebサイトに掲載			135		
がん相談支援センターの体制について別紙9に記載すること。				別紙9			136		
がん相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙10に記載すること。				別紙10			137		
① 国立研究開発法人国立がん研究センター(以下「国立がん研究センター」という。)による「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)(2)を受講後、国立研究開発法人国立がん研究センターが実施する「小児がん相談員専門研修」を修了した専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。			A	はい		(はい/いいえ)	138	✓	○
相談支援に携わる者は、対応の質の向上のために、「小児がん拠点病院相談員継続研修」等により定期的な知識の更新に努めている。			A	はい		(はい/いいえ)	139	✓	○
小児がんに関する相談支援に携わる、看護師等の診療従事者の人数			-	2	人		140	✓	
小児がんに関する相談支援に携わる、社会福祉士の資格を有する者の人数			-	4	人		141	✓	
小児がんに関する相談支援に携わる、精神保健福祉士の資格を有する者の人数			-	2	人		142	✓	
② 患者やその家族に対し、必要に応じて院内の診療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。			A	はい		(はい/いいえ)	143	✓	○

③	院内及び地域の診療従事者の協力を得て、院内内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	《はい／いいえ》	150	✓	○
	相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	《はい／いいえ》	151	✓	
④	小児がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けている。	A	はい	《はい／いいえ》	152	✓	○
	その際には、十分な経験を持つ患者団体等と連携して実施するよう努めている。	A	はい	《はい／いいえ》	153	✓	○
	オンライン環境でも開催できる体制を整備している。	B	はい	《はい／いいえ》	154	✓	
	小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙11に記載すること。		別紙11		155		
	小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(令和3年1月1日～12月31日)	-	1	回	156	✓	
⑤	がん相談支援センターについて、診療の経過の中で患者が必要とするときに確実に利用できるよう繰り返し案内を行っている。	A	はい	《はい／いいえ》	157	✓	○
	がん治療の終了後も長期的に利用可能な旨も併せて説明している。	A	はい	《はい／いいえ》	158	✓	○
	相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)				159		
	ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	《はい／いいえ》	160	✓	○
		-	3	件	161	✓	
	イ 領域別の小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	《はい／いいえ》	162	✓	○
		-	3	件	163	✓	
	ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	《はい／いいえ》	164	✓	○
		-	0	件	165	✓	
	エ 小児・AYA世代のがん患者の発育及び病態上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	《はい／いいえ》	166	✓	○
		-	8	件	167	✓	
		-	0	件	168	✓	
		-	14	件	169	✓	
		-	1	件	170	✓	
		-	0	件	171	✓	
	オ がん・生殖医療に関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	《はい／いいえ》	172	✓	○
		-	4	件	173	✓	
	カ 長期フォローアップに関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	《はい／いいえ》	174	✓	○
		-	8	件	175	✓	
	キ がんゲノム医療に関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	《はい／いいえ》	176	✓	○
		-	0	件	177	✓	
	ク アピアランスケアに関する相談に対応し支援を行っている。	A	はい	《はい／いいえ》	178	✓	○
		-	6	件	179	✓	
	ケ 患者のきょうだいを含む家族に対する支援を行っている。	A	はい	《はい／いいえ》	180	✓	○
		-	18	件	181	✓	
	コ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	《はい／いいえ》	182	✓	○
		-	2	件	183	✓	
	サ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	《はい／いいえ》	184	✓	○
		-	5	件	185	✓	
	シ その他相談支援に関することをやっている。	A	はい	《はい／いいえ》	186	✓	○
		-	47	件	187	✓	
(2) 院内がん登録							
①	がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	《はい／いいえ》	188	✓	○
②	院内がん登録の指針に基づき国立がん研究センターが提供する研修で認定を受けており、かつ中級認定者相当の技能を有する院内がん登録の実務を担う者の人数。	A	1	人 1人以上	189	✓	○
	うち専従者の人数	-	0	人	190	✓	
	配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	《はい／いいえ》	191	✓	○
③	毎年、最新の登録情報や、予後を含めた情報を国立がん研究センターに提供している。	-	はい	《はい／いいえ》	192	✓	
④	院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	《はい／いいえ》	193	✓	○
(3) 診療実績、診療機能等の情報提供							
	小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	《はい／いいえ》	194	✓	○
	大規模災害や感染症の流行などにより本院の診療状況に変化が生じた場合には、速やかに情報公開をするよう努めている。	A	はい	《はい／いいえ》	195	✓	○
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		医療機関のwebサイトに掲載	196	✓	
4 患者の発育及び教育等に関して必要な環境整備							
(1)	保育士を配置している。	A	はい	《はい／いいえ》	197	✓	○
	小児がん患者の保育に携わる保育士の人数	-	6	人	200	✓	
	小児がん患者の保育に携わる保育士のうち常勤の人数	-	4	人	201	✓	
(2)	病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	《はい／いいえ》	202	✓	○
	義務教育段階だけではなく、高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	A	はい	《はい／いいえ》	203	✓	○
	特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	《はい／いいえ》	204	✓	
	特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	はい	《はい／いいえ》	205	✓	
	病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	《はい／いいえ》	206	✓	
(3)	退院時の復旧および復学支援が行われている。	-	はい	《はい／いいえ》	207	✓	
(4)	子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	《はい／いいえ》	208	✓	○
	AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	《はい／いいえ》	209	✓	○
(5)	家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	《はい／いいえ》	210	✓	○
	部屋数	-	12	部屋	211	✓	
	長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい	《はい／いいえ》	212	✓	
	長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙12に記載すること。	-	はい	《はい／いいえ》	213	✓	
(6)	家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	《はい／いいえ》	214	✓	○
	この体制の質の向上についても積極的に取り組んでいる。	A	はい	《はい／いいえ》	215	✓	○
(7)	患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	はい	《はい／いいえ》	216	✓	
(8)	教育課程によらず、切れ目のない教育支援のためにICT(情報通信技術)等を活用した学習活動を含めた学習環境の整備を進めている。	A	はい	《はい／いいえ》	217	✓	○
(9)	小児がん患者の精神的なケアに関して、対応方法や関係機関との連携について明確にしている。	A	はい	《はい／いいえ》	218	✓	○
	関係職種に情報共有を行う体制を構築している。	A	はい	《はい／いいえ》	219	✓	○
	自施設に精神科、心療内科等があり、自施設で対応できる体制を整備している。	A	はい	《はい／いいえ》	220	✓	○
	自施設に精神科、心療内科等がない場合は、地域の医療機関と連携体制を確保している。	A	はい	《はい／いいえ》	221	✓	○
	(自施設に精神科・心療内科等があり、自施設で小児がん患者の精神的なケアができる場合には"はい"を選択してください。)	-	はい	《はい／いいえ》	222	✓	
5 臨床研究等に関すること							
	他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	《はい／いいえ》	223	✓	○
(1)	治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	《はい／いいえ》	224	✓	○
(2)	進行中の治験を除く臨床研究の概要および過去の治験を除く臨床研究の成果を広報している。	A	はい	《はい／いいえ》	225	✓	○
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		医療機関のwebサイトに掲載	226	✓	
(3)	自施設で参加可能な治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	A	はい	《はい／いいえ》	227	✓	○
	広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-		医療機関のwebサイトに掲載	228	✓	
(4)	臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	《はい／いいえ》	229	✓	
	設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	《西暦XXXX年XX月》	230	✓	
(5)	臨床研究コーディネーター(CRC)を配置している。	B	はい	《はい／いいえ》	231	✓	
	臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数	-	8	人	232	✓	

(6)	小児がん中央機関等と連携して、治験に関して患者に対する情報提供に努め、国内の連携体制を構築している。	A	はい	〈はい／いいえ〉	234	☒	☐
	臨床研究の問い合わせ窓口について別紙13に記載すること。		別紙13		235		
	臨床研究の実施総件数(令和3年1月1日～12月31日)	-	58	件	236	☒	
	臨床試験以外の臨床研究実施総件数(令和3年1月1日～12月31日)	-	21	件	237	☒	
	治験の実施総件数(令和3年1月1日～12月31日)	-	1	件	238	☒	
6 医療の質の継続的な評価改善の取組及び安全管理							
(1)	自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。 把握・評価の方法、改善策等について別紙14に記載すること。	A	はい	〈はい／いいえ〉	240	☒	☐
			別紙14		241		
(2)	これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	〈はい／いいえ〉	242	☒	☐
	地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	医療機関のwebサイトに掲載		243		
(3)	小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。	A	はい	〈はい／いいえ〉	244	☒	☐
	一般社団法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。	-	はい	〈はい／いいえ〉	245	☒	
	一般社団法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。	-	はい	〈はい／いいえ〉	246	☒	
(4)	小児がんに係る骨髓・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。	A	はい	〈はい／いいえ〉	247	☒	☐
	以下、小児がん診療を行う診療科の認定についてご回答ください。				248		
	一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会の非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科の認定基準『カテゴリ1』である。	-	はい	〈はい／いいえ〉	249	☒	
	一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会の非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科の認定基準『カテゴリ2』である。	-	いいえ	〈はい／いいえ〉	250	☒	
	一般社団法人日本造血・免疫細胞療法学会の非血縁者間造血幹細胞移植を施行する診療科の認定基準『カテゴリ3』である。	-	いいえ	〈はい／いいえ〉	251	☒	
(5)	医療法(昭和23年法律第205号)に基づく医療安全にかかる適切な体制を確保している。	A	はい	〈はい／いいえ〉	252	☒	☐
	日本医療機能評価機構の審査等の第三者による評価を受けている。	A	はい	〈はい／いいえ〉	253	☒	☐
その他 医療安全体制							
(1)	組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	-	はい	〈はい／いいえ〉	255	☒	
(2)	医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	-	はい	〈はい／いいえ〉	256	☒	
(3)	医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	-	はい	〈はい／いいえ〉	257	☒	
(4)	当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい	〈はい／いいえ〉	258	☒	
	当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。				259		
	① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	-	はい	〈はい／いいえ／-〉	260	☒	
	② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	-	はい	〈はい／いいえ／-〉	261	☒	
	③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	-	はい	〈はい／いいえ／-〉	262	☒	
(5)	医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	-	はい	〈はい／いいえ〉	263	☒	
	医療安全体制について別紙15に記載すること。		別紙15		264		
未充足の要件							
	必須要件のうち、令和4年9月1日時点で充足していないものについて、別紙16に記載すること。		別紙16		266		

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

小児がんについての対応状況を記載してください。

※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。

※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。

※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

チェック欄
に未入力なし

小児脳腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

病院名: 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間: 令和4年9月1日現在(実績は令和3年1月1日～12月31日)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数										当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ									
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	化学療法	放射線療法				陽子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※アドレスは、入力力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
					体外照射	定位放射線療法	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 血液・腫瘍科	8	2	×	○	×	×	×	×	×	×	×	①治療コーディネイト、②化学療法、自家造血細胞タンデム移植併用化学療法等を担当しております。JCOG参加施設で臨床試験治療、他の化学療法の情報も提供し、個々の患者さんにとって最善の治療を提供しております。	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/internal/hemat-and-oncology.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
2 脳神経外科	5	5	○	×	×	×	×	×	×	×	○	小児がん拠点病院指定後、小児脳腫瘍の治療件数が増加。開頭手術だけでなく内視鏡手術や定位的手術など疾患や病態ごとに最適な術式を選択します。	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/surgery/neurosurgery.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3 診療放射線科	1	1	×	×	○	○	○	×	×	×	×	あらゆる悪性腫瘍を対象に目的に応じた放射線治療を行っています。(放射線診断は小児総合医療センターで、放射線治療は隣接する多摩総合医療センターで実施している。)	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/surgery/radiology.html https://www.tnmhp.jp/tama/section/department/radiology/index.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
4 内分泌・代謝科	11	0	×	×	×	×	×	×	×	×	○	脳外科、血液腫瘍科、耳鼻科、外科といった診療科と共同して、厳密な電解質と内分泌管理を行っています。	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/internal/endo-and-metabo.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
5																			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名							治療内容							
他の治療(1)					自家造血細胞タンデム移植併用大量化学療法							自家末梢血幹細胞移植を事前に採取し、自家造血細胞移植を併用した大量化学療法を4回繰り返し返す治療で、髄芽腫に対して実施しております。							
他の治療(2)					血管塞栓療法							髄膜腫など血流豊富な腫瘍に対して、血管塞栓を行い、その後安全に腫瘍の全摘出を行います。							
他の治療(3)					内分泌補充療法							内分泌学的な補充、体液管理を行い、化学療法を安全に実施する手助けをしております。							
治療実績のある疾患名 ※(令和3年1月1日～12月31日)					髄芽腫、膠芽腫、びまん性内生性橋グリオーマ、神経膠腫(Pilocytic astrocytoma、Pediatric diffuse glioma、high grade)、脳胚細胞腫瘍(純型胚腫、卵黄嚢がん、混合性胚細胞腫)、松果体芽腫、脊索腫														

小児の眼・眼窩腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数													当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ									
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			陽子線治療	その他の治療法があれば記載※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容				
								体外照射	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野		
1 血液・腫瘍科	8	2	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	①治療コーディネイト、②化学療法を担当しております。最新の化学療法、治療についての情報も提供し、個々の患者さんにとって最善の治療を提供しております。	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/internal/hemat-and-oncology.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
2 眼科	1	1	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	他科と協力しながら治療を行っています。	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/surgery/ophthamology.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり		
3 診療放射線科	1	1	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	あらゆる悪性腫瘍を対象に目的に応じた放射線治療を行っています。(放射線診断は小児総合医療センターで、放射線治療は隣接する多摩総合医療センターで実施している。)	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/surgery/radiology.html https://www.tnmhp.jp/tama/section/department/radiology/index.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
4 脳神経外科	5	5	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	眼窩の上壁は頭蓋の底部でもあります。開頭が必要な眼窩内腫瘍の摘出手術は、脳神経外科が担当します。頭蓋底手術の技術を用いて、脳への手術操作の影響が最小限になるように心がけています。	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/surgery/neurosurgery.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
5																						
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください							治療名							治療内容								
他の治療(1)																						
他の治療(2)																						
他の治療(3)																						
治療実績のある疾患名 ※(令和3年1月1日～12月31日)																						

小児悪性骨軟部腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数														当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ									
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数					化学療法	放射線療法		陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※アドレスは、入力力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容					
			切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術		体外照射	小線源治療			他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野			
1 血液・腫瘍科	8	2	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	①治療コーディネイト、②化学療法を担当しております。JCOG参加施設で臨床試験治療、他の化学療法の情報も提供し、個々の患者さんにとって最善の治療を提供しております。	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/internal/hemat-and-oncology.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
2 整形外科	10	1	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	悪性骨軟部腫瘍の手術、腫瘍治療後の変形、成長障害にも対応可能です。化学療法、放射線治療等に関しては、院内他科との連携で行います。	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/surgery/orthopedics.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり			
3 診療放射線科	1	1	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	あらゆる悪性腫瘍を対象に目的に応じた放射線治療を行っています。(放射線診断は小児総合医療センターで、放射線治療は隣接する多摩総合医療センターで実施している。)	診療科・部門のご案内	https://www.tnmhp.jp/shouni/section/surgery/radiology.html https://www.tnmhp.jp/tama/section/department/radiology/index.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり			

4	外科	11	11	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	助骨原発の腫瘍、助骨転移、仙尾部原発の奇形腫などに対する外科的切除を行っています。	診療科・部門のご案内	https://www.tnhp.jp/shouni/section/surgery/surgery.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
5																				
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容								
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※(令和3年1月1日～12月31日)						Malignant rhabdoid tumor、外胚葉性間葉腫														

その他の小児固形腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数												当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ									
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門として いる医 師数	手術	化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			各診療科における当該疾患の治 療の特色・患者さんへのメッセージ など	※アドレスは、入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容							
					体外 照射	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)		見出し	アドレス	治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野					
1 血液・腫瘍科	8	3	×	○	×	×	×	×			①治療コーディネイト、②化学療法、自家造血細胞移植併用大量化学療法等を担当しております。JCOG参加施設で臨床試験治療等の情報も提供し、また保険適応となった陽子線治療のコーディネイト等、最善の治療を提供しております。 外科では腹部、胸部、体表の小児がんを扱います。治療には手術、化学療法、放射線療法の集学的治療が有効です。私たちは外科各科、血液・腫瘍科、病理科、放射線科を中心としたチームを作り、定期的なカンファレンスを行って、それぞれのお子様に一番適した治療法を考えて治療にあたっています。 腎腫瘍、膀胱腫瘍、精巣腫瘍の手術的治療を担当しています。原路変更等も行っておりますが、将来的なQOLを考慮した手術および管理を行っております。 あらゆる悪性腫瘍を対象に目的に応じた放射線治療を行います。(放射線診断は小児総合医療センターで、放射線治療は隣接する多摩総合医療センターで実施している。) 耳鼻いんこう科では、頭頸部に発生した腫瘍について、他科と連携して対応しています。	診療科のご案内	https://www.tnhp.jp/shouni/section/internal/hemat-and-oncology.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり					
2 外科	11	11	○	×	×	×	×	×	×	診療科のご案内		https://www.tnhp.jp/shouni/section/surgery/surgery.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり						
3 泌尿器科	5	5	○	×	×	×	×	×	○	診療科のご案内		https://www.tnhp.jp/shouni/section/surgery/urology.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり						
4 診療放射線科	1	1	×	×	○	○	×	×	×	診療科・部門のご案内		https://www.tnhp.jp/shouni/section/surgery/radiology.html https://www.tnhp.jp/tama/section/department/radiology/index.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり						
5 耳鼻いんこう科	4	0	○	×	×	×	×	×	×	診療科のご案内		https://www.tnhp.jp/shouni/section/surgery/otorhinolaryngology.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり						
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名					治療内容											
他の治療(1)					免疫療法					腎癌に対するインターフェロン治療											
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※(令和3年1月1日～12月31日)					神経芽腫、ウィルムス腫瘍、肝芽腫、未分化奇形腫																

小児血液腫瘍

○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数												各診療科における当該疾患の治 療の特色・患者さんへのメッセ ージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門として いる医 師数	化学 療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください				※アドレスは、入力せずにホームページから コピーしてください		掲載されている内容				
				自家末 梢血幹 細胞移 植	血縁者 間同種 造血幹 細胞移 植	非血縁者 間同種骨 髄移植ま たは脐帯 血移植	体外 照射	全身 照射	他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)				治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野		
1	血液・腫瘍科	8	3	○	○	○	○	×	×	×									
2	診療放射線科	1	1	×	×	×	×	○	○	×									
3	リハビリテーション科	2	2	×	×	×	×	×	×	×									
4	小児歯科	3	3	×	×	×	×	×	×	×									
5																			
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名								治療内容							
他の治療(1)				血縁者間半合致移植								再発など予後不良と考えられる造血器腫瘍に対して、臨床試験として血縁者間半合致移植を行います。							
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※(令和3年1月1日～12月31日)				B前駆細胞性急性リンパ性白血病、T細胞性急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、急性前骨髄球性白血病、骨髄異形成症候群、非ホジキンリンパ腫、ホジキンリンパ腫、ランゲルハンス細胞組織球症															

生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

患者数の記載と別添資料の提出有無の選択をしてください

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和4年9月1日現在(実績は令和3年1月1日～12月31日)

■令和3年1月1日～12月31日の期間に生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

	自施設で妊孕性温存を実施した患者数	他施設へ紹介して妊孕性温存を実施した患者数
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精子保存を行った患者の数	0	1
がんの治療に際する妊孕性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巣組織の凍結保存を行った患者の数	0	6
がんの治療に際する妊孕性温存目的で精巣内精子採取術(Onco-TESE)を行った患者の人数	0	0

■がん患者の妊孕性温存に関する連携協力体制について記載すること。

①相談に対応している部署(例:がん相談支援センター、化学療法室等)

相談支援センター、血液・腫瘍科

(複数回答可)

②紹介先施設名

聖マリアンナ医科大学病院、獨協医科大学埼玉医療センター、東京慈恵会医科大学附属病院、東邦大学医療センター大森病院

(複数回答可)

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙2を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

(あり/なし)

ファイル形式

その他

(ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

PDF

○ 診断時における医師からの情報提示

- ・小児がんの診断時には、家族に対して必ず妊孕性のリスク、妊孕性温存について説明しております。
- ・また、AYA世代や判断可能な年齢であれば、本人に対しても診断後なるべく早期に上記の説明をしております。

○ 妊孕性温存治療のための他院紹介

- がんの治療に際して、妊孕性温存のための処置が必要な患者に対しては、適切なタイミングで、妊孕性温存治療ができる他施設へ紹介しております。

【紹介実績のある医療機関】

- ・聖マリアンナ医科大学病院
- ・獨協医科大学埼玉医療センター
- ・東京慈恵会医科大学附属病院
- ・東邦大学医療センター大森病院 など

○ 相談支援センターにおける情報提供



AYA世代患者向けリーフレット 治療、性と生殖、学校生活、仕事について



○ 相談支援センターにおける情報提供

てなど(令和3年度作成)

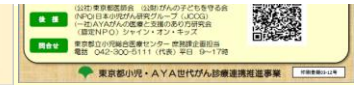
- ・相談支援センターではAYA世代にあるがん患者・家族からの相談にも対応しており、住んでいる自治体に
応じて使用できる支援制度等を御案内しています。(がん患者の生殖機能温存治療に対する助成制度など)
- ・特に東京都の「AYA世代がん等患者相談支援事業」の一環として、他院の患者からの問い合わせにも対応でき、
また妊孕性温存をはじめ、高等教育の就学継続、新規就労も含めた情報を集め、各施設に対して配信することを目的とした、
「AYA世代がん相談情報センター」を開設しました。
(令和3年9月3日)

○ リーフレット・市民公開講座等における普及啓発

- ・妊孕性の問題も含めた晩期合併症や長期フォローアップについては、当院が事務局を務める
「東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会」(東京都の小児・AYA世代がん事業)においても積極的な普及啓発に
努めており、相談支援センターの相談員等が御案内の際に使用するリーフレット等も作成しております。
また令和3年度は、小児・AYA世代がんの基礎知識として、「妊孕性温存とがんゲノム」の市民公開講座を開催しました。



AYA世代がん相談情報セ
ンター開設ポスター
(令和3年9月3日開設)



市民向け公開講座
～妊孕性温存とがんゲノム～
の開催
(令和3年11月14日開催)

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和4年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数： 22

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		チームカモミール		
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師1、2	常勤	1. 血液・腫瘍科、2. 心療内科	1.「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」(PEACE)修了、「小児科医のための緩和ケア教育プログラム」(CLIC)修了、日本緩和医療学会会員 2.「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」(PEACE)修了、「小児科医のための緩和ケア教育プログラム」(CLIC)修了
2	医師3、4、5	常勤	3. 在宅診療科、4. 新生児科、5. 総合診療科	3.「小児科医のための緩和ケア教育プログラム」(CLIC)受講、日本緩和医療学会会員 4.「小児科医のための緩和ケア教育プログラム」(CLIC)受講
3	医師6、7	常勤	6. 麻酔科、7. 集中治療科	6.「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」(PEACE)修了
4	医師8、9	非常勤	8. 血液・腫瘍科 9. 緩和ケア内科(多摩総合医療センター)	8.「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」(PEACE)修了、「小児科医のための緩和ケア教育プログラム」(CLIC)修了、日本緩和医療学会緩和医療専門医 9.「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」(PEACE)修了、日本緩和医療学会緩和医療認定医
5	看護師1、2、3	常勤	1. 2. がん看護、3.看護管理	1. 日本緩和医療学会会員、公益財団法人日本看護協会認定緩和ケア認定看護師、小児がん相談員 2. 公益財団法人日本看護協会認定がん性疼痛認定看護師

6	ソーシャルワーカー1、2	常勤	社会福祉	小児がん相談員
7	ソーシャルワーカー3、4	非常勤	社会福祉	小児がん相談員
8	臨床心理士1、2、3	常勤	心理	小児がん相談員
9	薬剤師	常勤	薬剤科	がん薬物療法認定薬剤師
10	事務1、2	常勤	計画課計画グループ	

緩和ケア外来の状況

記載の有無

なし

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター
時期・期間： 令和4年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）										いいえ
2	緩和ケア外来の名称										
3	担当診療科名										
4	主な診療内容・特色										
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ		見出し								
			アドレス								
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）										
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										
	窓口の名称										
	電話	代表		(内線)				直通			

緩和ケア病棟の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
なし

病院名: 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間: 令和4年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している								
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理								
3	小児の入院可否								
4	緩和ケア病棟の形式								
5	緩和ケア病棟の病床数			床					
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し							
		アドレス							
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている (はい/いいえ)								
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く								
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1				
10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)								
	窓口の名称								
	電話	代表		(内線)			直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し		アドレス					
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている (はい/いいえ)								
	窓口の名称								
	電話	代表		(内線)			直通		
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し		アドレス					
12	緩和ケア病棟の設備	例: 家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム(食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある)、特殊入浴室							
13	訪問看護ケアの有無	例: 自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など							

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

記載の有無 あり
※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター
時期・期間： 令和4年9月1日現在（実績は令和3年1月1日～12月31日）

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン外来について オンラインセカンドオピニオン外来について	アドレス	https://www.tmhp.jp/shouni/outpatient/secondopinion.html https://www.tmhp.jp/shouni/outpatient/secondopinion-online.html		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 （実績）	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載あり	掲載なし	掲載あり	掲載あり	掲載あり	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。
※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

小児脳腫瘍

○	※別紙1を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 （対応可／対応不可）	対応可	昨年の実績 ※令和3年1月1日～12月31日まで	5	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 （専門：○/専門外：×）	当該疾患の専門分野（専門：○/専門外：×）			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	脳神経外科	○	○	×	×	脳脊髄腫瘍 オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
3人目						
4人目						
5人目						

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙1を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 （対応可／対応不可）	対応可	昨年の実績 ※令和3年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 （専門：○/専門外：×）	当該疾患の専門分野（専門：○/専門外：×）			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
2人目						
3人目						
4人目						
5人目						

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙1を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和3年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	稀な腫瘍に関するセカンドオピニオンにも対応しております。 オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
3人目						
4人目						
5人目						

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙1を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和3年1月1日～12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	外科	○	○	×	×	腹部、胸部、体表の小児がん オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
3人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	稀な腫瘍に関するセカンドオピニオンにも対応しております。 オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
4人目	耳鼻いんこう科	○	○	×	×	喉頭疾患
5人目	泌尿器科	○	○	×	×	腎尿路系腫瘍

小児血液腫瘍

○	※別紙1を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※令和3年1月1日～12月31日まで	1	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	造血細胞移植に関するセカンドオピニオンにも対応しております。 オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
2人目	血液・腫瘍科	○	×	○	×	造血細胞移植に関するセカンドオピニオンにも対応しております。 オンラインセカンドオピニオンにも対応しております。
3人目						
4人目						
5人目						

小児がんに関する研修の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和3年4月1日～令和4年3月31日

■令和3年4月1日～令和4年3月31日の期間で開催した研修会等の回数について記載すること

	主に院内の診療従事者向けに開催した研修会の件数	主に院外の診療従事者向けに開催した研修会の件数
小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数	5	5
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数	3	2
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数	0	0
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数	0	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数	0	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数	2	3

■研修の内容について記載すること

※ただし、参加人数については、自施設・自施設以外の内訳が不明である場合には、総数の欄にのみ記載し、自施設・自施設以外の欄は0を記入すること。

研修の総件数：

10

研修の名称		研修の内容・特徴	参加人数				実施形態	他地域ブロックからの参加の可否	
			自施設	自施設以外					総数
				小児がん 拠点病院	小児がん 連携病院	その他			
1	【東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会(当院事務局)として実施(日本小児血液・がん学会/TCCSGと共催)】症例検討会	多診療科により連携した診療が必要な固形腫瘍について、多診療科医師によるディスカッションを行った。	0	0	0	0	92	③	①
2	【東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会(当院事務局)として実施】北多摩南部小児がん症例検討会・講演会	地域で開業されている小児診療科の先生方を対象に、小児がんの初期症状の特徴や診断の方法を研修することで小児がんの早期発見・早期治療を目指す。年に1回実施。北多摩南部地区として杏林大学医学部付属病院と共同開催。2件の症例検討と「小児・AYA世代がんに関する最近の話題」をテーマとし講演を実施。	0	0	0	0	29	③	①
3	【東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会(当院事務局)として実施】小児緩和ケア研修会	小児・AYA世代がんの患者が在宅医療を希望する場合、がん治療病院や在宅診療医療機関など、多くの関係者が連携して患者の思いに沿った医療を提供できるように、グループワークでの症例検討や講演を通じて、小児・AYA世代がん患者の在宅医療について考えた。	0	0	0	0	36	③	①

4	【小児がん拠点病院事業として実施】第1回小児がん看護研修	小児がん看護に関する専門的な知識及び技能を有する看護師の育成を主な目的として、小児がん患者への対応に関する課題や対応について、様々な職種の方を講師とした講義を年に2回実施。第1回のテーマは「小児がんの基礎知識」、「がん薬物療法を受ける子どもへの看護」、「疼痛マネジメント」等。自由参加で院外からの受講生も受け入れており、毎回沢山の方にご参加いただいています。	0	0	0	0	132	②	①
5	【小児がん拠点病院事業として実施】第2回小児がん看護研修	第2回は「小児がん患者の妊孕性について」をテーマに実施。	0	0	0	0	58	②	①

がん相談支援センターの体制、相談件数と相談支援内容

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和4年9月1日現在

職種	常勤／非常勤	専従／専任／その他※1	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修の受講状況			小児がん相談員 専門研修	小児がん相談員 継続研修※3
				基礎研修 (1)	基礎研修 (2)	基礎研修 (3)※2		
1	ソーシャルワーカー	常勤	専従(8割以上)	2.5	受講	受講	未受講	受講
2	ソーシャルワーカー	非常勤	専任(5割以上8割未満)	5.5	受講	受講	未受講	受講
3	ソーシャルワーカー	常勤	兼任(5割未満)	1.5	受講	受講	未受講	受講
4	ソーシャルワーカー	非常勤	兼任(5割未満)	1	受講	受講	未受講	受講
5	臨床心理士・公認心理師	常勤	その他	4	受講	受講	未受講	受講
6	臨床心理士・公認心理師	常勤	その他	3	受講	受講	未受講	受講
7	臨床心理士・公認心理師	常勤	その他	2	受講	受講	未受講	
8	臨床心理士・公認心理師	常勤	その他	1	未受講	未受講	未受講	
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

※1 「その他」については、相談支援に関する業務に従事する時間が就業時間の5割未満である者について、選択してください。

※2 相談員基礎研修(3)については、小児がん拠点病院および小児がん連携病院の指定にあたり必須の要件ではありません。

※3 小児がん相談員継続研修においては、平成31年1月1日～令和3年12月31日の期間で1回以上受講の実績がある場合に限り、「受講」を選択してください。

●年間の相談総件数(令和3年1月1日～12月31日)

1,822

件

上記1件あたりの平均対応時間

平均

30

分

OK

相談件数(令和3年1月1日～12月31日)

	相談者	計
1	自施設の患者・家族	1,797
2	他施設の患者・家族	25
合計		1,822

相談支援内容 ※がん相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄で掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	経済的支援(小児慢性・手当・妊孕性助成の申請案内など)	自施設と他施設の患者・家族
2	在宅療養支援	自施設と他施設の患者・家族
3	学校関係(復学支援など)	自施設の患者・家族
4	心理的サポート	自施設の患者・家族
5	家族兄弟支援	自施設の患者・家族

OK

がん相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和4年9月1日現在

1	がん相談支援センターの名称	子どもがん相談支援センター				
2	問い合わせ先電話番号	042-312-8117	(内線)			
3	■対面相談の実施（実施/未実施）	実施				
	予約の要否（必要/不要）	不要				
	■電話相談の実施（実施/未実施）	実施				
	電話番号	042-312-8117	(内線)			
	予約の要否（必要/不要）	不要				
4	■FAX相談の実施（実施/未実施）	未実施				
	FAX番号					
	■電子メール相談の実施（実施/未実施）	未実施				
	メールアドレス ※個人のメールアドレスは記載しないでください					

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和4年9月1日現在

語り合うための場総実施回数（期間：令和3年1月1日～12月31日）： 16

1. 患者の交流会・勉強会・相談支援・講演会等で連携している小児がん患者団体と、小児がん患者およびその家族が語り合うための場について記載してください。

	連携している小児がん患者団体について			当該団体が主催する小児がん患者およびその家族が語り合うための場について							
	連携している団体の名称	団体の参加対象者	具体的な連携内容	上段：語り合う場の名称	病院 職員 の 関与	活動状況		参加対象者			参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)
				下段：主な活動内容		定期 /不定期	頻度 (回)	病名	院外からの 参加可否	患者のみ /家族のみ /患者・家族	
例	〇〇〇会	小児血液腫瘍の患者およびその 家族	・月1回患者交流会を開催して いる。 ・市民講演会に演者として参加 してもらっている。	〇〇〇会 小児がん患者の親の交流 会を開催している。	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	名称 相談支援センター 電話 XXX-XXX-XXXX直通
1	菜の花の会	小児総合医療センターで 抗がん剤治療、造血幹細 胞移植を受けた患者及び 家族	年に1回定期的に会を開き、 交流会、勉強会、疾病や治 療に関する質問への説明を 行っている。ほか、月に1回 相談会を実施	菜の花の会 交流会・勉強会の開催（原 則月1回の開催、R3はコ ロナ感染症の感染拡大に より不定期開催）	あり	定期	月 1	小児がん	参加可	患者・家族	名称 血液・腫瘍科 電話 042-300-5111（代表） 内線5118
2	STAND UP！！	39歳以下でがん罹患した 方 （AYA世代がん患者・経験者）	①東京都小児・AYA世代が ん診療連携協議会構成員と して参加 ②AYA世代患者とのオンラ イン交流イベントでの、団体 紹介、活動内容等の案内 ③共同で臨床研究を実施	2については、当院と共催で語り合う場の開催はしていない。							名称 電話
3	（一社）AYAがんの医療と 支援のあり方研究会	若年時にがんを経験した サバイバーで結成された 医療者、研究者、患者、家 族などが協働して活動す る研究会	AYA世代患者とのオンラ イン交流イベント及び東京都 小児・AYA世代がん診療連 携協議会開催の講演会・研 修等の後援	AYA week期間中にイベン ト等を開催	あり	不定期	年 1	小児・AYA世代が ん	参加可	患者・家族	名称 計画課計画グループ 電話 042-300-5111（代表） 内線3415
4	AYA cancer network project	AYAがん患者・経験者	・若年性がん患者団体「ST AND UP！！」認定NPO 法人マギーズ」の団体紹 介、活動内容の案内 ・テーマを選んでみんなで ティータイムトーク	AYAキャンサーサバイ バーズミーティング 患者同士の交流会を年2 回程度実施	あり	不定期	年 2	AYA世代がん	参加可	患者のみ	名称 計画課計画グループ 電話 042-300-5111（代表） 内線3415
5	がんの子どもを守る会	小児がん患者やその家族 （菜の花の会の会員の一 部が参加）	①東京都小児・AYA世代が ん診療連携協議会構成員と して参加 ②東京都小児・AYA世代が ん診療連携協議会開催の 市民公開講座等の後援	市民公開講座 一般都民（患者家族）等向 けの講演会を年に1回実 施	あり	定期	年 1	小児・AYA世代が ん	参加可	患者・家族	名称 計画課計画グループ 電話 042-300-5111（代表） 内線3415

6	シャインオンキッズ	小児がんや重い病気と闘う子どもたちとその家族	①小児がんや難病などの病気と闘う子どもと家族の療養環境を向上させるため、当該団体と協働で2019年8月からファシリテッドッグを導入。小児・AYA世代がんも含めこころのケアにあたっている。 2021年活動実績(小児がん関係以外も含む) (2021年1月4日～12月28日) ・新規患者数:83名 ・総訪問数:2032件 ・AAT[動物介在療法]:214件 ②東京都小児・AYA世代がん診療連携協議会開催の講演会・研修等の後援。	ファシリテッドッグによる、院内における患者家族等へのこころのケアの実施	あり	不定期	週	3	院内患者・家族	参加不可	患者・家族	名称 電話	計画課計画グループ 042-300-5111(代表) 内線3415
7												名称	
8												名称	
9												名称	
10												名称	

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内のがん相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称	森のライブラリー						
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	森のライブラリー					
		アドレス	https://www.tmhp.jp/shouni/about/floor/library.html					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	入院中・通院中の方のみ	その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
		0	0	0	0	0	0	
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
		設置なし		設置なし		設置なし		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	042-300-5111		(内線)			
		直通1	042-312-8158		直通2			

8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア	2	人
				人	ボランティア	2	人
				人			人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施					

3. 院内のがん相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。				
2	図書等が設置されている場の名称	院内ラウンジ					
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し					
		アドレス					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	入院中・通院中の方のみ	その他				
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌		
		0	0	0	0	0	0
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機	
		設置なし		設置なし		設置なし	
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表		(内線)			
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア	2	人
				人			人
				人			人
9	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施					

長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和4年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙12を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

あり

(あり/なし)

ファイル形式

ワード

(ワード/エクセル/パワーポイント/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

○施設名

・ドナルド・マクドナルド・ハウス ふちゅう

○施設の概要

- ・多摩メディカルキャンパス内医師公舎の1階に立地している。
- ・病院からの距離 約300m

○人員配置

- ・スタッフ 3名
- ・ボランティア 110名（登録者数）

○施設内の設備



＜宿泊室＞
12室 バス・トイレ付き



＜調理スペース＞



＜食事スペース＞



＜プレイルーム＞



＜ランドリー＞

※ドナルド・マクドナルド・ハウスでは、ご利用者、ボランティア、スタッフ全てにあらかじめ質問票を記載していただき、ハウス内での感染予防に努めています。

臨床研究の問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間: 令和4年9月1日現在

【臨床研究(治験を除く)】の問い合わせ窓口

■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について				臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある			
※臨床試験専用の意がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
1	窓口の名称		臨床研究支援センター				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究支援センター				
		アドレス	https://www.tmhp.jp/shouni/section/clinical-study/clinical-trials/patient/index.html				
	電話	代表	042-300-5111	(内線)			
直通		042-312-8124					
■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について				臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある			
※臨床試験専用の意がある場合に限り、以下の表に記載してください。							
2	窓口の名称		臨床研究支援センター				
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	臨床研究支援センター				
		アドレス	https://www.tmhp.jp/shouni/section/clinical-study/clinical-trials/medical/index.html				
	電話	代表	042-300-5111	(内線)			
直通		042-312-8124					

【臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究】の問い合わせ窓口

■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について							臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある			
※臨床研究専用の意がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
1	窓口の名称				臨床研究支援センター					
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し		臨床研究支援センター					
			アドレス		https://www.tmhp.jp/shouni/section/clinical-study/clinical-trials/patient/index.html					
	電話		代表		042-300-5111		(内線)			
直通			042-312-8124							
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について							臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある			
※臨床研究専用の意がある場合に限り、以下の表に記載してください。										
2	窓口の名称				臨床研究支援センター					
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し		臨床研究支援センター					
			アドレス		https://www.tmhp.jp/shouni/section/clinical-study/clinical-trials/medical/index.html					
	電話		代表		042-300-5111		(内線)			
直通			042-312-8124							

【治験】の問い合わせ窓口

■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある							
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。												
1	窓口の名称			臨床研究支援センター								
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し			臨床研究支援センター					
				アドレス			https://www.tmhp.jp/shouni/section/clinical-study/clinical-trials/patient/index.html					
	電話			代表			042-300-5111		(内線)			
				直通			042-312-8124					
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について					治験専用の窓口がある							
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。												
2	窓口の名称			臨床研究支援センター								
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください			見出し			臨床研究支援センター					
				アドレス			https://www.tmhp.jp/shouni/section/clinical-study/clinical-trials/medical/index.html					
	電話			代表			042-300-5111		(内線)			
				直通			042-312-8124					

医療の質の継続的な評価改善の取組について

記載の有無 **あり**

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間: 令和4年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している **はい** (はい/いいえ)
②院内誌、チラシ等で広報している **はい** (はい/いいえ)
③ホームページに掲載している **はい** (はい/いいえ)
④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

<https://www.tmh.jp/shouni/about/achievement/index.html>

- ⑤地域の広報誌等で広報している **はい** (はい/いいえ)
⑥その他の方法で掲載している **はい** (はい/いいえ)
⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

「事業概要」「診療のご案内」等を作成し、関係医療機関に送付している。

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

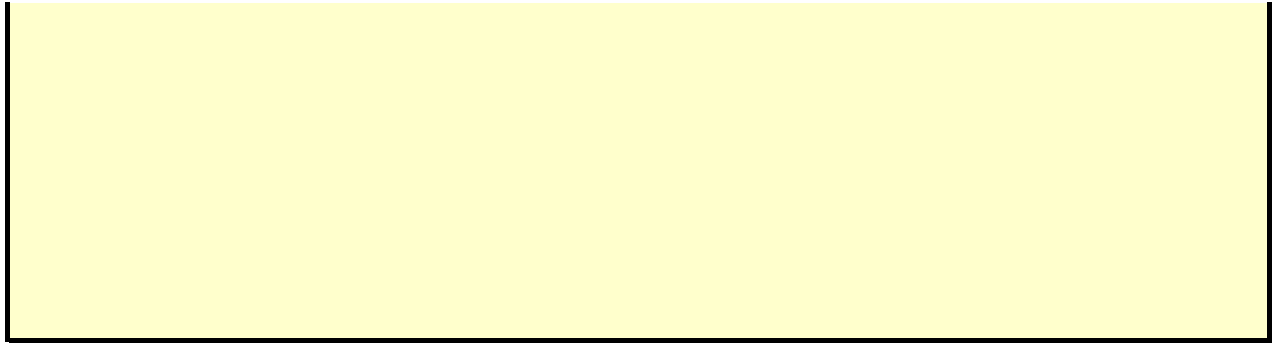
課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3カ月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 診療機能及び診療実績	セカンドオピニオン外来件数:30件 小児がん延入院患者数:10,984人 AYA世代がん延入院患者数:450人 (いずれも令和3年度)	令和4年度より、内部環境と外部環境それぞれに由来する要素を洗い出し現状を分析していくSWOT(スウオット)分析を行っている。また、中期目標・年度計画の目標指標を設定し、中間期及び年度末に達成状況及び取組内容の評価を行い、年度末の評価については次年度の目標及びアクションプランに活用している。これらの達成状況及び取組結果については病院運営会議等で院長等の関係者に報告・評価を行っている。
2 地域連携	連携医療機関向け症例検討会・講演会の開催回数及び来場者数:27回、計4,219人 (令和3年度)	地域連携に関する項目として、「連携医療機関向け症例検討会・講演会の開催回数又は来場者数」の他、「紹介率」、「返送・逆紹介率」等の項目で目標値を設定している。
3 患者満足度の向上	入院患者を対象とした満足度調査 ①「満足」の割合:82.3%、②「満足」+「ほぼ満足」の割合:98.1% (令和3年度)	退院時患者アンケートを行い、病棟別等の実績を毎月集計している他、患者の声相談窓口やご意見箱からの意見や苦情も併せて集約して院内委員会で報告を行い、改善策を協議している。ご意見・苦情等への対応結果の一覧表を作成し、院内に掲示している。
4 緩和ケアチーム介入率 等	QIIによって示された数値の経年変化を捉えた上での改善	上記及び別添資料による取組に加えて、平成28年度以降は、厚生労働科学研究費補助金による松本班の研究に小児がん拠点病院として参加する形で、当院の小児がん診療に関するQI(Quality Indicator)を算出し、診療上の課題点を明らかにした上で院内会議により改善策を検討するなどして、PDCAサイクルを回すことに役立てている。
5		

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	院長をはじめとする多職種のスタッフにより構成される院内組織「小児がん拠点病院事業推進室」にて検討・実施
2	院長をはじめとする多職種のスタッフにより構成される院内組織「小児がん拠点病院事業推進室」にて検討・実施
3	院長をはじめとする多職種のスタッフにより構成される院内組織「小児がん拠点病院事業推進室」にて検討・実施
4	院長をはじめとする多職種のスタッフにより構成される院内組織「小児がん拠点病院事業推進室」にて検討・実施
5	

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙14を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 **あり** (あり/なし)
ファイル形式 **その他** (ワード/エクセル/パワーポイント/その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。 **PDF**



医療安全体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間： 令和4年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

注1) 研修医は除いてください。

注2) 常勤とは、当該医療機関が定める1週間の就業時間のすべてを勤務している者をいいます。ただし、当該医療機関が定める就業時間が32時間に満たない場合は常勤とみなしません。(「医療法第21条の規定に基づく人員の算出に当たっての取扱い等について」(平成10年6月26日付け健政発第777号・医薬発第574号、厚生省健康政策局長・医薬安全局長連名通知)の別添「常勤医師等の取扱いについて」を参照)

注3) 「専従」および「専任」とは、当該医療機関における当該診療従事者が「専従」については「8割以上」、「専任」については「5割以上」、当該業務に従事している者をいいます。
「その他」については、「5割未満」の場合に選択してください。

注4) 「医療安全管理者の業務指針および養成のための研修プログラム作成指針」(平成19年3月30日付け医政発0330019号厚生労働省医政局長通知及び薬食発第0330009号厚生労働省医薬食品局長通知)に基づく研修を想定しています。

医療に係る安全管理を行う部門の名称		医療安全対策室					
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー							
		職種	常勤 /非常勤	専従/専任/その他	医療安全に関する研修の受講状況(注4)		
					受講した研修名	研修主催者名	修了日
1	部門長	医師	常勤	専任(5割以上8割未満)	医療安全管理者養成研修	(一社)医療安全全国共同行動	2020/2/15
2		医師	常勤	兼任(5割未満)	医療安全管理者養成講座	セコム医療システム(株)	2021/3/31
3		看護師	常勤	専従(8割以上)	医療安全管理者養成研修	(公社)東京都看護協会	2019/6/11
4		薬剤師	常勤	専任(5割以上8割未満)	医療安全管理者養成研修	(一社)医療安全全国共同行動	2019/8/24
5		看護師	常勤	兼任(5割未満)			
6		その他	常勤	専任(5割以上8割未満)			
7		その他	常勤	兼任(5割未満)			
8		その他	常勤	兼任(5割未満)			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

■上記一覧の職種において「その他」を選んだ場合、下記に詳細を記入してください。

職種	
例	臨床工学技士(上記リスト6番)
1	事務(上記リスト6番～8番)
2	
3	
4	
5	

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		患者の声相談窓口			
電話	直通				
	代表	042-300-5111	(内線)	3117	3118 3119

様式3(病院機能)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

なし

病院名:

地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター

時期・期間:

令和4年9月1日時点

※様式3(病院機能)の該当指定要件のAのうち満たしていない項目について、満たしていない項目とその理由と今後の見通し等について具体的に記載してください。

※通し番号については、様式3(病院機能)シートのL列の番号を記入してください。

※令和4年9月2日以降に、要件の充足状況に変動があった場合には、別途、文書で厚生労働省健康局がん・疾病対策課へ届け出てください。

	通し番号	令和4年9月1日時点で満たせていない要件	現状の説明	充足見込み時期
例	96	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	〇月〇日付けで専門的な知識及び技能を有する看護師が退職し、9月1日時点で配置できていない状況である。	令和4年10月1日時点で、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師を新規採用し、緩和ケアチームに配置した。詳細は別添の要件再充足
例	115	放射線療法に関する機器を設置すること。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	〇月からリニアックの機器入れ替えがあり、9月1日時点で利用できる機器がない。	令和4年11月末日までに、リニアックの入れ替えが完了し、治療再開できる見通しである。
1	なし	なし		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				